

事例 ●

取組の名称 マスク作りから、つながりづくり

分類：

居場所

アウトリーチ

相談

学習支援

見守り

住民主体

運営団体基本情報

● 運営団体名	栗原市若柳 東お茶っこ会	● 代表者名	代表 鈴木 ちよの	● 所在地	栗原市若柳字上畑岡中ノ沢79
● スタッフ構成	会員 13名	● 運営財源	自主財源(会費制) 栗原市社会福祉協議会より活動助成金		
● 連絡先	TEL: 0228-32-3083 Mail: yr-takahashi@kurihara-sfk.or.jp	● ホームページ (参考情報)			

新型コロナウイルス感染症拡大前の事業概要

● 対象者層	70歳～90歳 女性	● 活動頻度	月一回 第3日曜日	● 活動場所	米ヶ浦東老人憩いの家
● 活動の形態	高齢者の自主運営交流サロン	● 平均利用者数	10名～12名	● 利用料金	一回 500円

【活動の特徴と新型コロナウイルス感染症対策】

具体的な活動	●新型コロナウイルス感染症拡大前	毎月第3日曜日を定例とした、高齢者サロン会を自発的に設立し、8年間継続し活動をしている。一品手作りの惣菜、菓子を持ち寄り、昼食も手作りの季節ごとの郷土料理を提供。夕方まで一日共に過ごし、情報共有、体調の変化の観察。生活上の不安や、悩みも話せる場となっている。休んだのは、過去2回のみ。	● 活動経費	@500 一人 一回 60,000円 栗原市社会福祉協議会より助成金 50,000円
	●新型コロナウイルス感染症拡大後の取組と工夫	市の管理にある施設のため、利用自粛で、4月5月は休む。その間、会の代表者が中心となり、手作りマスクを作成。作成には、代表者の夫、娘、休校中の孫も手伝いに加わる。出来あがったマスクを会員宅に一件ずつ訪問し配付。安否確認も行う。また、継続して構築した繋がりを切らさぬよう、屋外でのお茶飲みで近況確認をし、声をかける。	● その他、特記事項	★市町村基本情報 宮城県栗原市 県北部に位置し、市の面積が県内最大の約800平方km。自然と四季のうつろいが大変美しい高原都市。 人口 66,565人 高齢化率39.7% (2020.4末)
●取組の効果	マスク作りを通じて、孫が地域の支え合いの一助の担い手となったことで、残したい大切なことを伝承出来るきっかけにもなっている。			